ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・９月号・付録
2008年９月６日発行（毎月１回６日発行）
昭和43年６月８日第三種郵便物許可

〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14　中村ビル２F
NPO法人放送批評懇談会
TEL（03）5379-5521／FAX（03）5379-5510
ホームページ　http://www.houkon.jp/
Eメール　kondankai@houkon.jp
編集・隈部紀生

新体制最初の理事会開催 次回ギャラクシー賞の参加料決定

―７月理事会報告―

６月の総会で新役員決定後最初の理事会を７月24日開催した。

◇音理事長挨拶

「放送業界が変わってくる可能性がある中で、新たな発信をするために足腰を強化していきたい。このため維持会員社を増やし、放送の現場とつないでいく必要がある。足腰を強めるためにプロジェクトチームをつくって展開し、これまでの遺産を大事にしながら「放送批評とは何か」を検討し、社会に訴えていきたい」

◇出版編集委員会

「ＧＡＬＡＣ」は10月号から新しい委員会が担当する。10月号は「死刑報道を考える」という24ページの特集を組み、表紙は相武紗季さん。11月号は「検証中国報道」を予定し、表紙は中井貴一さん。

◇選奨事業委員会

「審査をしている人が見えやすい形にした方がよい」「審査委員を開かれた形にした方がよい」という意見が出され、論議された。

◇企画事業委員会

「放送批評とは何か」について本（副題“ギャラクシーの目”）の出版を考え、来年のギャラクシー賞の授賞式に間に合わせたい。

◇グランドデザイン

グランドデザイン小委員会の最終答申は９月以降になるが、中間報告で示された維持会員のメリットの具体化をまず検討した。従来一律だったギャラクシー賞の参加料（審査料）を、維持会員社と一般（非会員）に分け、維持会員社は現行通り、一般は若干引き上げる件について、事務局が用意した３つの案をもとに議論した。その結果維持会員社のメリットをはっきりさせることについては異論なく、一般の参加料についてはラジオ局の経営の苦しさも考える必要があること、ＣＭについては維持会員社以外の参加が多いので、応募が減って収入が減る恐れもあるので、引き上げ額をさらに増やしてもよいという指摘があった。活発な論議の結果今回は事務局案の第２案（維持会員社現行通り、一般はＣＭと報道活動が20％、テレビとラジオは10％引き上げ）で合意が得られて決定し、８月から募集を順次開始する。

◇総会後の諸手続きほぼ完了

６月の総会で理事長はじめ新しい役員が選任されたため、法務局への登記、東京都への報告などの手続きがほぼ完了し、挨拶状も発送した。新名簿は８月中に印刷に出す予定。

◇志賀名誉会長から寄付

30年理事長を務められ、６月の総会で名誉会長に就任された志賀信夫さんから多額の寄付が寄せられた。基金として志賀さんのご意向を生かす活用法など検討する。

◇日中韓テレビ制作者フォーラム・イン福岡について

９月24日～27日に福岡市のアク

（４ページへ）

ロス福岡で開催。各国からジャンルを問わずに３点ずつ作品を持ち寄り、これまでよりコンクール性を強めるとともに、「若者」をテーマにした作品を１つずつ持ち寄って作品づくりと今後の共同制作についてシンポジウムを開催する。日本からは50人の参加を見込む。放送人の会を中心に参加者を募っているが、放懇としても２名を派遣するほか、自費参加で何人か参加して活動を支援する。

◇正会員の入会を承認

前川英樹さん

◇会員の退会の承認

清水孝雄さん、山室英男さん、佐藤大祐さん

◇次回の理事会

８月は休会。次回は９月29日（月）午後６時30分から

［出席］音好宏、隈部紀生、上滝徹也、小田桐誠、藤田真文、入江たのし、兼高聖雄、五井千鶴子、小林毅、坂本衛、嶋田親一、滝野俊一、橋本隆、藤久ミネ

新入会員

◇前川英樹

ＴＢＳメディア総合研究所

会議記録

【６月】

５日　グランドデザイン小委員会
17日　選奨・ＣＭ定例部会
21日　理事会・通常総会
24日　選奨・テレビ月評会
26日　選奨・ラジオ定例部会
27日　出版編集委員会

【７月】

18日　企画事業委員会・出版プロジェクト
22日　選奨・ラジオ定例部会
24日　理事会
25日　企画事業委員会・シンポジウムプロジェクト
28日　選奨・テレビ月評会

◇お知らせ◇

放送批評懇談会ホームページ「正会員」一覧の会員プロフィールを更新し、掲載いたしました。

http://www.houkon.jp/houkon/member_sei.html

恐れ入りますが、正会員の皆さまは、各自ご自分の記載内容をご確認ください。

訂正などございましたら、至急、事務局までメール、ファクス、電話でご連絡いただければ幸いです。

メール　kondankai@houkon.jp
FAX　03-5379-5510
TEL　03-5379-5521

よろしくお願いいたします。（事務局）

「竹山洋氏を囲む会」延期のお知らせ

前号の「ほうこん」で８月９日（土）開催とお知らせしました“小さな集い”第３回、脚本家の竹山洋氏を囲む会がゲストのご都合などで延期になりました。新しい日時などは下記の通りです。

日時　2008年９月６日（土）午後２時から５時
場所　テレビマンユニオン会議室（B2F）
東京メトロ　表参道駅B2 出口
国連大学の正面向かって右の道を入り奥左のビル
「コスモス青山サウス棟」

出欠や問い合わせは下記へお願いします。
石井清司事務所　FAX　03-3594-1633
電話　090-9333-1633

ギャラクシー賞 マイベストTV賞 2008年７月度投票開始！

ギャラクシー賞マイベストTV賞2008年７月度作品の投票を開始します。正会員の皆さまは、添付した〈正会員専用　投票用紙〉でマイベストTV賞の投票にご参加ください。

リスト以外の作品を推薦できる欄を新設しました。ご活用ください。

ウェブまたは携帯サイトから参加の場合は、投票ページに入室ください。

新入会員自己紹介

メディア再編の流れの中で

辻　春輝

　ネットがメディアすべてを変えようとしている。ネット利用者の増大によって、コンテンツのあり方が問われ、経営が揺さぶられている。情報を独占してきたマスメディアの解体そして再編の過程に入ろうとしている、と言っていいだろう。

　その中でテレビやラジオの番組がどう変わり、あるいは変わらないのか。これまでと違ったスピードで、視聴者と放送局の関係が動いていくのではないか、という予感がしている。そういう転換期にこそ、番組そのものをじっくり視聴し記録する意味は大きいと考えている。幅広い視点で番組を拾い上げ、顕彰する放送批評懇談会の活動の意義を再確認した次第だ。

　時代の鏡である放送を通して、社会のありようや人々の意識の推移を考察したり、気づかれにくい番組の問いかけを発掘することができたりすれば、うれしい。

若い世代に、ラジオをもう一度

高瀬　毅

　ニッポン放送を振り出しに、メディアの世界で仕事を始めて、今年でちょうど30年になる。

　現在は、活字の仕事も多くなったが、ジャーナリストの原点は、企画から取材、編集、構成、原稿書き、しゃべりまで「独り」でこなした「ラジオ時代」にある。

　最近は、ラジオの聴き方すら知らない若者も珍しくない。なんと残念なことだろう。ラジオに夢中になる体験は精神的な「はしか」のようなもの。十代で経験して、一人前の大人になっていく。人間味の薄れがちなデジタル情報社会だからこそ、ラジオの自由さと、パーソナルな感覚を体験することが大切だと思う。

　音声だけの「表現の不自由」は、「想像する自由」と裏腹だ。それはミステリー小説を読む面白さとも、どこかでつながっているはずだ。

　若い世代を、ラジオにもう一度振り向かせたい。ラジオの最大の課題はそこにあると考え、ラジオ委員を務めさせてもらう所存だ。

現役取材者の〈視点〉で！

水島宏明

　日本テレビでドキュメンタリー制作とニュース解説をしています。元々道産子で元札幌テレビ。貧困問題がライフワークですが「ネットカフェ難民」の造語以来「貧困ディレクター」が愛称となりました。

　制作者ですので放懇との接点といえばギャラクシー賞。若い頃、初めての番組で賞をいただいた感激は忘れられません。その時のテーマは生活保護。バブル経済の陰で見え隠れする貧困を告発した番組でした。奇しくも最近、社会の貧困化が目立ち、問題を伝える機会が増えて番組制作でも〝先祖帰り〟しています。

　テレビで骨のある報道が減る昨今、報道も年々難しい環境になっています。そんな現場から発信できることはないのか？　放送界に少しでも恩返しできないか？　そんな思いが強まり会員に加えていただきました。「ＧＡＬＡＣ」の編集委員として参加させていただきます。現役の取材者・制作者の〈視点〉を提供するのが自分の役割と考え、かき回し役に徹します。よろしくお願いします。

ラジオ・デイズ

安斎茂樹

　このたび、縁あってお誘いをいただき、入会させていただきました。

　私は10代のころ、ＦＭ情報専門雑誌を毎号欠かさず買ってはエアチェックに精を出し、深夜放送を聴きながら勉強していた、そんな世代の一人です。インターネットやケータイなど影も形もなかったあのころ、地方に住むロック少年にとって情報源といえば、活字と、そして何よりラジオでした。

　気が付けば、そんな日々から二十数年もの時が流れていました。長い間、ラジオから遠ざかっていましたが、最近、ラジオを聴く生活へ返ってきました。

　3年ほど前、ポッドキャストを知り、懐かしい「旧友」と再会することができたのです。

　あのころの自分に、現在の環境があったら、どうしていたんだろう？　テレビとラジオの「日常性」は、どうなっていたんだろう？　そんなことを考えています。

　いま、ポッドキャストのダウンロードが私の日課です。

クリエイティブで イノベイティブな日々

勝野正博

　博報堂ＤＹメディアパートナーズｉ―メディアビジネス局の勝野正博です。

　１９８２年博報堂入社、ラジオを23年担当し２００３年よりネット関連の担当です。ネット広告業界は、検索広告、モバイル広告、動画広告、行動ターゲティングと新しい広告手法が次々にリリースされ活況を呈しています。そして時代は、いよいよ地上波デジタルへと向かいます。新しいメディア環境には、新しい広告が必要です。広告会社の立場から、「クリエイティブを追求することが、イノベイティブなビジネスに繋がる」。そんな気持ちで、新しい環境にチャレンジする日々を過ごしております。私の経験が、放送批評懇談会の発展に少しでも貢献できれば幸いです。宜しくお願いします。

放送作家の立場から、新たに学ぶことを楽しみに！

さらだたまこ

　はじめまして。新入会員のさらだたまこと申します。この筆名は、大学生だった頃、ニッポン放送の『夜のドラマハウス』に原稿を持ち込んで10回ボツになり、11回目でようやく採用されたときに、プロデューサーのドン・上野氏から命名されました。ダメが何度続こうと、めげない！　そういう意味の名前だと自分に銘じております。「この名前ならそのうち料理番組の仕事がくるぞ」というドン氏の予言通り、その後、テレビ朝日の『料理バンザイ！』の構成に長く携わり、飲み食いが大好きな人生を送りつつ、いろんなことに首をつっこみながら、四半世紀以上も放送作家の看板をあげてきました。ただ、物書きとしてはまだまだ修行の身。放懇の会員に加えていただいた機会を、放送文化のさらなる発展のために、「転び続けてもいつかは起きる！」の初心に戻って、さらなる精進のための勉強の場としたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

掲載は到着順。
新入会員自己紹介は、次号以降も順次掲載します。